

第4回検討会の主な意見の概要

1 小学校区コミュニティ・センター

2 中学校区コミュニティ・センター

- ・小学校区コミセンと中学校区コミセンに個別の役割や設置目的があるのは一定理解できるが、これからの時代は施設と機能を固定化せずに考えていくべきではないか。
- ・中学校区コミセンは小学校区コミセンと比較すると稼働率が低く、利用促進に向けた文言が必要ではないか。
- ・協働のまちづくり推進組織の事務局の設置などが進む中で、コーディネート機能を担うことなど市のまちづくりの取組の推進を期待している。
- ・明石市に引っ越してこられた方など、地域活動に参加したくても、どのように参加したらよいか分からない住民もいるのではないか。市からの情報発信等に加え、インターネットの施設予約ができれば稼働率が改善するのではないか。

3 厚生館

- ・貸館機能がメインである印象もあるので、必要な施設であることの説明が必要ではないか。
- ・人権啓発・教育の拠点とすることをもう少し踏み込んで取組方針に記載してはどうか。
- ・施設の老朽化が進んでおり、機能も限定的であることから、長期的には施設を減らすことも検討すべきではないか。

4 幼稚園・保育所・認定こども園

- ・働く女性が出産して育児を行いながら働き続けることができるよう、市として保育環境を確保することは重要ではないか。
- ・子育て施策が全国的に有名な明石市として、就学前の児童を対象とした取組は今後も継続して行っていく必要があるのではないか。

5 小学校

6 中学校

- ・あと数年で小学校の児童数がピークアウトする見込みの中で、短期的には教室確保が課題となるが、中長期的には空いた教室を多機能で活用する観点も重要ではないか。
- ・児童数・生徒数が増加している小中学校において、教室不足が課題とのことだが、特に小学校内のコミセンの貸室は稼働率が高くないので、活用を検討できるのではないか。
- ・小学校全体の児童数が指標として示されているが、学校別の児童数推計も示したほうが良いのではないか。

7 卸売市場

- ・取扱高の減少、施設の老朽化、事業者の減少、近隣の卸売市場の状況等、様々な要素を踏まえて、あり方検討委員会において議論を深めてほしい。

8 少年自然の家

- ・施設の廃止方針は確定しているとのことだが、少年自然の家は、海や自然に触れることができるコンセプトを大事にしていたが、大蔵海岸などを活用しながら、明石市に生まれた子どもたちが海で安全に体験活動を行う機会を等しく確保してほしい。

9 市営住宅

- ・施設の廃止や統廃合等に言及しているのが市営住宅と少年自然の家であるが、他の施設について別の審議会等で議論する際には、市として施設総量を減らしていく大きな方針があることを意識してもらう必要があるのではないかと。

10 放課後児童クラブ

- ・小学校に入った段階で働く女性が仕事を辞めざるを得ないケースを聞くので、放課後児童クラブは重要な取組と考えている。小学校区コミセンや、中学校区コミセン、厚生館の空きスペースを活用する検討を行っても良いのではないかと。

11 木の根学園

- ・施設の老朽化が進んでいる中、指定管理者制度を導入して以降、定員の拡大や新たな取組などを進めており、知的障害をお持ちで、専門的な支援を必要としている方々にとって大切な役割を担っている施設である。
- ・将来的な民営化検討は一定理解できるものの、財源確保や専門的な支援を継続する仕組みづくりが必要であり、現場の状況やご家族の気持ちと市の考え方を擦り合わせながら、すべての人にやさしいまちづくりの観点で検討を進めていくべきである。

12 地方独立行政法人明石市立市民病院

- ・患者数減少等の実状を踏まえ、市民病院の再整備にあたって例えば小児科の充実等、市民病院の強みや専門性をどうするのかといった議論を今後のあり方検討において期待したい。
- ・施設の老朽化や経営面はもちろんだが、医師が働きやすい環境づくりの観点もあわせて検討時には必要ではないかと。

13 石ヶ谷墓園

- ・取組方針案が具体的過ぎる印象を受けたので、他施設との全体のバランスを考えた上で、文言を修正すべきではないかと。